書き抜き読書ノート 1037	2011 年 7 月 30 日

恵海著「米グーグル・シュミット会長の国家観」大機小機、日本経済新聞 2011 年 7 月 30 日朝刊を読む

米グーグル・シュミット会長の国家観

１. 米グーグルのエリック・シュミット会長が先週東京を訪れた際、国家観について直接議論した。

２．会長の国家観は、米国外交評議会の機関誌「フォーリンアフェアーズ」の昨年 10 ～ 12 月号に掲載された論文「Digital Disruption」に詳説されている。

３．(１)30 年戦争終結をきめたウエストファリア条約により、それまでの宗教国家に代わって、民族を中心に国境を定めた国民国家が成立し、今日まで続いてきた。

(２)しかし、世界の携帯保有者が 50 億人、インターネット利用者が 20 億人となり、大量の情報が瞬時に世界中に伝搬するデジタル社会になると、国境により市民を分断し法的統治に服させ、自らの利益のために情報や伝達手段を統制するという国家は、自由や平等を求める人とは相いれない存在となってしまった。

(３)今後は、情報の共有により結合した空間が人間の自由、平等、民主主義を実現することになろう、という考えだ。

４．(１)そこで、シュミット会長に質問した。

(２)「国家の最大の責務は国民の生命と財産の保護だ。デジタル社会の進展により、国境で分断された社会よりも携帯やインターネットを通じた情報交換により形成される空間の方が、現代に生息するデジタル人間には、自由で生きやすいと感じられよう。

(３)しかし、そのような仮想空間は、市民の生命や財産を直接守ることはできない。

(４)従って、会長の考える国家に代わる情報で結合された空間とは、現実には存在が難しい理想社会ではないか?」

５．シュミット会長は、

(１)「情報伝達技術が急進展し、個人や非政府組織(NGO)が情報の楽しさや利益を享受して

いる以上、統制型権力国家は長くは続かない。

(２)国家の権威が徐々に衰退してゆく中で各個人が、自由、平等、人権の尊重、民主主義を、国境を超えた情報の自由な交流によりつくり上げ、生命や財産を保護することが目指すところだ。

(３)こうした交流を統制する国家は絶対に生き残ることはできない」と、明確に述べていた。

６．(１)自らの国家観に合わない統制型国家からはいかに利益が上がろうとも脱出する、という明確な哲学は、利益が上がりさえすれば人権無視国家にも進出し、何でもやるという企業の対極といえる。

(２)企業経営や経営者には確固たる哲学や節操が極めて大切だ。

(３)日本にも、かつて哲学と節操を持つ企業や経営者が多数存在したといわれている。

[コメント]

恵海氏のとりあげた Foreign　Affairs の論文は傑出したもので、多くの経済人から注目を浴びていた。その執筆者のシュミット氏と恵海氏との対話は、ものごとの本質に迫り興味深い。哲学と節操を持つ企業を目指したい。

－ 2011 年 7 月 30 日林　明夫記－